

I 実践

1 研究主題

差別や偏見にとらわれず、互いのよさを認め合い、思いやり助け合う児童の育成を目指して

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「豊かな心をもち、自ら学び考え、たくましく生きる児童の育成」である。この目標のもと、「な 仲間と共に め 目指そう か 輝く わ 私の未来」を合い言葉に、「公平で差別や偏見をもたない子ども」「思いやりの心をもち、だれに対しても親切に行動できる子ども」「仲良く助け合いながら、最後まで仕事をやり遂げる子ども」「物事を正しく判断し、行動できる子ども」「自ら学び、自ら考える子ども」「きまりを守り、健康で安全な生活をする子ども」を育てることを人権教育の目標とした。これらの目標を達成するためには、まず、児童一人一人が互いのよさを認め合うことが必要である。そして、互いに認め合った上で、相手を思いやり助け合う心をもつことによって、互いの存在を大切にできると考える。そこで、互いのよさを認め合い、思いやりや助け合う気持ちを育み、一人一人が大切な存在であるという心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 互いのよさを認め合うための体験活動の展開

イ 人権意識を養うための啓発活動の充実

2 実践内容

(1) 互いのよさを認め合うための体験活動の展開

ア 異学年交流

学期に一度、全校で縦割り班遊びが行われた。6年生を中心に話し合い、計画した鬼遊びやボール遊び、室内ゲームなどを行った。上級生が下級生の面倒を見たり、気遣ったりしながら、楽しく活動できた。高学年のリーダーとしての意識を育てるとともに、異学年と遊ぶ楽しさを感じたり、上級生の優しさや頼もしさを知ったりする機会になっている。

イ 地域交流

低学年では、1年生が地域の高齢者の方々から昔遊びを教わり、2年生がおもちゃ祭りに幼稚園生や1年生を招待した。4年生は、地域の方々と協力して、ホテルの住む北川の清掃活動を定期的に行った。また、4～6年生が参加する合奏団が、交流センターで行われる敬老会に参加して演奏するなど、異学年や地域との交流が行われ、様々な方々と関わることができた。そうした中で、相手を思いやることの大切さを実感することができた。

ウ 居住地校交流

特別支援学校との居住地校交流が7月と12月に行われた。同じ居住地の同年代の児童と一緒に学習や給食を共にし、支援学級の交流会に参加してもらうことで、互いを認め合い、交流を深めることができた。

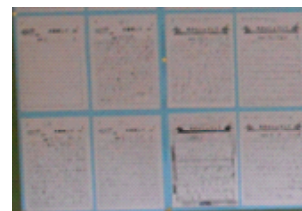
エ あいさつ運動

小中連携の一環として、中学生と共にいった。中学生が加わることで、日頃の挨拶よりも意識的に気持ちのよい挨拶が交わされた。

(2) 人権意識を養うための啓発活動

ア 校内人権週間（なかよし週間）

全国人権週間に合わせて、校内でも人権週間を設定し、この期間に道德の授業を中心に人権について考える機会をもった。学年ごとに視聴覚教材を鑑賞し、話し合いや感想交流を通して、人権意識の高揚を図った。



感想カード

イ よいところ発見運動

人権週間に合わせて、学校全体でよいところ発見運動を実施した。友達やクラスのよいところ、学年を越えて見付けた友達のよさ、学校のよさをカードに記入し、昇降口の「あったかハート運動」のコーナーに掲示した。互いのよさを知り、認め合う機会となった。



よいところ発見

ウ 人権メッセージへの取り組み

1学期の終わりに、「あったかハート運動」として全校児童に呼びかけて、人権メッセージに取り組んだ。低学年は家庭の協力も得て、人権の大切さについて考える機会とした。「いじめについて考えたこと」や「友達について」「差別について」など、各自様々な内容のメッセージを書くことができた。その中から、各学年数点を「あったかハート運動」のコーナーに掲示した。友達の考えや思いを知り、自分を振り返り、他者を認める意識を育てる一助とした。

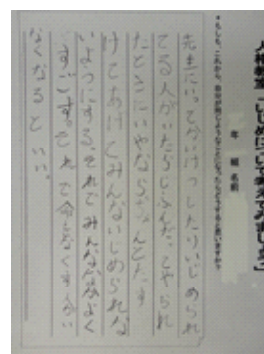


人権メッセージ

エ いじめをなくそう人権教室

3年生では、人権擁護委員を招いて道徳の授業を行った。「いじめはぜったいわるい」のDVDを視聴後に、登場人物それぞれの気持ちを考えることで、他者への思いやりやいたわりの心といった、人権尊重の意識を養うことをねらいとしている。子供達はいじめている子・いじめられる子・いじめを見ている子の立場になって意見を述べながら、自分の考えを深めることができた。積極的に意見が出され「いじめ」について真剣に考えることができた。

授業の感想



3 成果

- (1) 異学年や地域との交流をとおして、様々な人々と関わり、身近な人への尊敬や感謝の気持ちが育ってきている。また、相手を思いやり、大切にしようという気持ちも育まれつつある。
- (2) 「あったかハート運動」のよいところ発見や人権メッセージへの取組、人権週間の実施により、友達のよさに気づき、自分を振り返るよい機会となった。また、人権に対する意識付けにもなった。

II 今後の課題

- 1 人権教育の目標や計画を職員全体で共通理解を図り、指導や具体的な活動について、各学年の計画を立案し、より実践的な活動を展開できるようにする。
- 2 児童の実態を的確に把握し、課題意識を持って指導に当たるとともに、職員の研修機会もできるだけでもてるように努める。また、授業参観等の機会を利用し、人権に関する学習や話題を提供し、家庭の理解も深めるようにする。

III 人権コーナーの設置の様子

本年度は「あったかハート運動」として、昇降口の全校児童の目に触れる場所に、人権コーナーを設置した。滑川小学校の合い言葉と共に、全校で取り組んだ人権メッセージを掲示し、全校で共有できるようにした。また、人権週間に授業で視聴した視聴覚教材の感想、「良いところ発見」なども掲示し、友達のよさや、自分が知らなかったクラスや学校のよさを再発見できるようにした。

